



公益信託あだちまちづくりトラスト

このゆび とまれ

2017.4
No.26

<http://adachi-trust.jp>

あなたの まちづくり 活動を 応援します。



千住いえまちプロジェクト 路地遊びイベント

第8回助成活動団体成果報告会

平成 27 年度トラスト助成活動団体成果報告
テーマ別パネルディスカッション（活動団体交流）
開催日時：平成 28 年 10 月 22 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 30 分
開催場所：東京電機大学 東京千住キャンパス 1 号館 100 周年ホール



<p>P.15</p> <p>◆平成28年度助成活動団体助成申請から助成金交付まで</p>	<p>P.13</p> <p>◆成果報告会参加者アンケート集計結果</p>	<p>P.12</p> <p>◆閉会挨拶</p>	<p>P.11</p> <p>◆全体講評</p>	<p>P.09</p> <p>テーマ 歴史・文化</p> <p>◆あだち銭湯文化普及会</p> <p>◆特定非営利活動法人 千住文化普及会</p> <p>◆千住仲組協議会 (資料報告)</p>	<p>P.07</p> <p>テーマ 防災</p> <p>◆あだち防災プロジェクト (旧:あなたと私のあだち防災プロジェクト)</p> <p>◆足立一・二・三丁目地区防災まちづくり連絡会 (資料報告)</p>	<p>P.05</p> <p>テーマ まちの課題解決</p> <p>◆伊興ソーシャルファーム実行委員会</p> <p>◆柳原まちづくり研究会</p> <p>◆西新井大師周辺地区まちづくり協議会 (資料報告)</p>	<p>P.03</p> <p>テーマ 空き家の活用</p> <p>◆千住いえまちプロジェクト</p> <p>◆千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会</p>	<p>P.02</p> <p>◆開会挨拶</p>	<p>P.01</p> <p>あだちまちづくりトラスのしくみ</p>
---	---------------------------------------	--------------------------	--------------------------	---	---	--	--	--------------------------	------------------------------------

あだちまちづくりトラス

「あだちまちづくりトラス」は、自分たちのまちを、安全で安心して快適に暮らせる魅力ある足立にするアイデアあふれる自主的なまちづくり活動を応援しています。

「あだちまちづくりトラス」は、個人や団体等からの寄付金を公益信託法に基づき信託銀行に委託し、その運用益等でまちづくり活動に助成しています。

この制度は、昭和 63 年からスタートし、信託銀行に運営を委託しています。

代表受託信託銀行：三菱 UFJ 信託銀行(株)

詳しくは、公式ホームページ <http://adachi-trust.jp/> をご覧下さい。

足立区

委託 ↓ ↑ 報告



会場風景



開会挨拶



大熊 喜昌 運営委員長
まちづくりカウンセラー

協創のまちづくりへ、トラストを有効活用

本日は、お忙しいところ大勢の方にお集りいただきましてありがとうございます。公益信託あだちまちづくりトラスト」の報告会は、今回で8回目となるわけですが、開始当初よりも内容が充実し、会の進め方も改善されてきていると思います。

トラストの歴史を紐解きますと、昭和63年にトラストができ事業を開始して以降、28年が経過しました。その間、約470件の個人、あるいは団体に助成を行い、総額にして約8億5000万円、平均すると年間3000万円の助成金を交付しています。これだけの額を、まちづくりに対して助成している区は、ほとんどありません。

さて、トラストは、これまで足立区のまちづくりに寄与してきましたが、社会状況の変化により、助成の需要、内容が、さまざまに変化しています。端的に言えば、ハードからソフトへという流れが根底にあり、それに対するプログラムの改善は、これまでも行ってきました。3年前からは、活動内容がより豊富になり、その対応をきちんとしなければならぬということ、昨年からは、運営委員会で活動内容について検討し、新たに改善したプログラムが、来年度から実施されることになっています。

特に今回、足立区の基本構想が改定となり、足立区の将来目標を「協創のまちづくり」とし、これが基本テーマとなります。これまで公的サイドのまちづくりを、区民や企業がサポートするという体制でしたが、今後、実質的には、「協創」の概念の中で、区とそれぞれの団体、関係者などが対等の立場で、双方主体的に進めていくことになると考えられます。その意味でも、ますます、あだちまちづくりトラストの意義が、重要になるでしょう。今後是非、トラストを有意義に活用していただきたいと思っています。

今日の報告会は、これまでと違った形で意見交換などをしていくようですが、トラスト事業がよい方向へ発展していくことを祈念してご挨拶にかえさせていただきたいと思っています。

千住いえまちプロジェクト 残す、作る、つなぐで、 千住のまちを活性化

私

私たちは、平成25年から平成27年にかけて、あだちまちづくりトラストの助成を利用し、残すこと、作ること、つなぐことをキーワードに活動してきました。千住のまちの財産となる文化的価値のある建物を残す、路地裏などの遊休物件、空き家などを楽しくまちに開いた形で活かしていくことに力を注いでいます。

活動のなかで掲げたのは、調査・記録・保存、情報発信・共有、空間利用の実践・展開の3本の柱です。

まず始めに調査・記録・保存として、千住のまちの魅力について、資料収集、ヒアリング調査、実測調査を行いました。そこで得た情報をもとに空間利用イベントを開催したり、足立区、郷土博物館、千住仲間協議会など、他団体との共同イベントを開催しました。

情報発信・共有では、まち歩きイベントを年2回開催したり、「千住いえまちMAP」の配布も行いました。また、昨年だけでも、雑誌、テレビなどのメディアに多数取材していただきました。Webの展開では、ホームページにて活動報告をさせていただいています。また、遊休物件などの紹介もしており、実際、その物件に借り手がついたという実

績もあります。

空間利用の実践・展開に関しては、千住の歴史を見守ってきたお寺や銭湯で余暇のイベントを開催したりしています。また、リノベーション支援として、千住三丁目「玉井荘」というアパートの空き部屋をリノベーションし、子どもたちが参加できるイベントを開催しています。

将来的には、登録有形文化財の登録支援や、千住にある他の活動団体との交流を積極的に行いまして、遊休物件ストックのさらなる活用を考えています。また、私たちが今後、自立的に成り立っているよう社団法人への展開も見据えています。



発表者
山崎 たいくさん



まち歩きイベントの様子

千住ヤツチャイ大学プロジェクト実行委員会 空き家を活用し、新たな コミュニケーションスペースに

私

私たちは、昨年度から一般助成で助成金をいただき活動しています。主な活動は、空き家の活用です。空き家を新たなコミュニケーションスペースとして開き、人の流れを呼び込むことを活動の柱としています。

現在は、千住ほんちよう公園前にある、古い空き家をリノベーション。「たこテラス」と名づけ、交流の場として開放、そこを拠点として活動しています。「たこテラス」では、まちなか文庫を開設、子ども向けの絵本や音楽、文化関連の書籍を置いていきます。また近隣のアーティストのご協力のもと、手作り楽器のワークショップを開催したり、楽器を置いたり、子どもたちが自由にのびのびと遊べるスペース作りをしています。

単発イベントでは、ヌメ革ストラップのワークショップ、千住のアーティストの方と行った染め物ワークショップなどもあります。また、外部からゲストを呼びライブを行うことも。「即興からめる団」の絵本読み聞かせワークショップなどは好評でした。大きなイベントでは、世界的なアーティスト足立智美さんの長い曲(360分)を作るイベントや、安養院で、有名アーティ

ストを招いた音楽シンポジウムを開催。これらのイベントでは、入場料をいただきましたが、たくさんの方に来ていただきました。

今回は、メディアの方にも取り上げていただき、散歩の達人の扉の表紙で「たこテラス」が紹介されました。Webでもいろいろと紹介されています。

今後の活動、展望としては、魅力あるまち千住では、空き家も活用されているということ、音やアートも千住は得意としていると思います。また、有料イベントも増やしていきたい、助成がなくても活動できる自立した団体への展開を考えています。



発表者
能見 ゆう子さん



「散歩の達人」掲載



【講評】
服部 仁 運営委員
足立区都市建設部 建築室長

魅力ある空き家の活用モデル

千 住いえまちプロジェクトさん、千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会さん、先進的な空き家活用事例のご紹介ありがとうございます。

現在、足立区の建築室でも、第一次の空き家調査を実施したところです。足立区には、一戸建てが約10万棟あるのですが、そのうちの約2300棟が空き家であるということがわかっていきます。

この空き家を具体的にどうしていけばよいのか。空き家率の高い千住エリアには、現在、666棟の空き家があり、このエリアをモデル地域として、詳細な調査を行うことができます。

また、花畑には、将来、大学が来る予定があるのですが、現在、そこには123棟の空き家があります。一軒一軒、専門家と現地調査をしながら、どう活用ができるか、検討しているところですので、できれば、区も両団体と相互乗り入れをして、魅力ある空き家の活用モデルケースを、足立区から発信していけたらと思います。

先程、千住いえまちプロジェクトさんのお話に出ました草加市に負けないくらい頑張りますので、是非、お知恵をお借りできれば、また、行政側にもこのような環境づくりをしてほしいなどのご意見をいただければと思います。お金の面に関しては、議会の同意をいただかなければならないのですが、つなぐ支援、情報発信支援などで頑張っていきたいと思っておりますので、今後、相互乗り入れというような形で、ご協力いただければと思います。本日は、空き家利活用の先進事例のご紹介、本当にありがとうございます。

空き家の活用ディスカッション

それぞれの持ち味を生かした、 団体間の交流

加藤

両団体とも空き家を活用し、イベントを開催したりしています。そこで、お互いの団体で相互乗り入れ、情報交換をしたりというような展開があるとおもしろいのではないかと思います。そのあたり、どういったご意見をお持ちでしょうか。

千住いえまちプロジェクト

千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会さんの発表で、安養院でイベントを開催した話がありました。安養院は地域活動に活用させていただく場として我々が発掘しました。反対に落語のイベントを開催した時は、チンドン屋の演出をヤッチャイ大学さんにご協力いただきました。

千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会

千住いえまちプロジェクトさんのまち歩きイベントの途中で「たこテラス」を見学していただきました。また、「たこテラス」の活用についての話し合いを行っています。

会場より

空き家の活用というお話ですが、借りる場合には費用が発生すると思います。そのあたりは、どのようにしていますか。

千住いえまちプロジェクト

ヨガのイベントや、空き家を活用したイベントの収益で、なんとか家賃が払えている状況です。家賃をお安く設定していただいている場所もあります。

千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会

「たこテラス」に関しては、ご厚意でお借りしています。今後、他の場所を借りる時には、有料イベントなどの収益で賄えるようにしていきたいということ、助成金も活用させていただいています。

会場より

千住の件、先進的な活動を精力的にされているようですが、北千住以外にも古民家、空き家などがあります。他の地域への展開は、どう考えていますか？

千住いえまちプロジェクト

私が、梅田出身でして、梅田でなにか起こしたいと個人的には考えています。立場上、言いづらくところもありますが、その可能性は、あるかと思えます。

千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会

今年度は、足立区の小台にいい場所があるという話が、実行委員会の中で出ています。

千住いえまちプロジェクト

11月より草加市役所主導で、リノベーションまちづくりが始動します。そのサブユニットマスターとして、私たちに声がかかり、草加市のまちづくりにも協力していく展開があります。



コーディネーター
加藤 仁美 運営委員
東海大学 教授

伊興ソーシャルファーム実行委員会

農業を通じた多世代間 交流の拠点づくりを

昨年4月1日に発足した伊興ソーシャルファーム実行委員会は、私の祖父が生産農家をしてきた約500平米の土地を体験型農園のように開放し活動を行っています。

今回、トラストを申請したのには、二つの理由があります。一つは、繋がりやの結節点になりたいということ、二つ目が、まちの歴史的な文脈を残したいという思いです。

つながりの結節点ということに関して、足立区は、世帯数が上昇している反面、町会・自治会への参加者が減少し、コミュニティへの参画意識が薄れています。農で地域を繋ぎ、地域の活性化と魅力づくりを進めたいと思っています。

まちの歴史的な文脈を残すということでは、足立区は、もともと農業が活発なエリアでしたが、高度経済成長以降、住宅地の様相が強くなり、特色のないまちになってしまったと感じています。時間の積み重ねを切り捨ててしまうようなことが、日本各地で起きていますが、農を通じた多世代間の交流で足立区の歴史を次世代に伝えていきたいと思っています。

活動内容としては、毎週、水曜から土曜に農業指導を行っています。また、イベントとして「風鈴の絵付け



発表者
山崎 有康さん

ワークショップ」手ぬぐいを色付けする「草木染めワークショップ」などを開催。昨年11月には、農家・林重孝さんを招いて「農業講習」を行いました。さらに秋祭りを開催し300名以上の来場者がありました。それ以外にも、元高校の化学教師による「静電気の実験」を小学校低学年を対象に実施しました。今後の展開ですが、何かが生まれる場作りをしていきたいと思えます。地域に対して活力を生む活動をしたのが二つ目。そして、雇用の創出。最後に、近所の小学校や保育園、幼稚園のお子さんたちが農を体験する場を提供できればと考えています。



農業指導



ワークショップ

柳原まちづくり研究会

まちづくり活動の 拡充へ向け絵地図を制作

20年ほど前、第1号の「柳原界限がってん地図」を制作しました。その後、柳原のまちも大きく変わり、今回あらためて自分たちのまちを記録に残したいという思いから、トラストという形で足立区のご支援をいただき「柳原界限がってん地図」第2号を制作しました。

この地図は、ミウラ折りという、人口衛星のソーラーパネルを開く時に採用された折り方で制作しています。今回の成果物としては、ミウラ折りの携帯用地図とポスター用に折りがなく商店などいろいろな場所に飾ってもらうタイプの2種類の地図があります。地図には、さまざまなものが描かれ、荒川放水路ができた時のことも紹介されています。この地図を、合計で1万部制作しました。

制作に際しては、編集会議をワークショップ形式で行い、まち歩きをしながら、掲載する内容を検討しました。第1号制作時には、思い入れが強すぎて、情報を雑多に入れすぎてしまったという反省もあり、今回は、情報の優先度を入念に検討しました。その後、絵地図師の高橋美江氏に地図をまとめていただきました。今回、「柳原界限がってん地図」



発表者
小倉 敏政さん

を制作しましたが、私たちの団体のメインイベントは、「柳原音楽祭」のことを、まちのみんなに知ってほしくて地図を制作しました。

私たちの団体は、みんなが楽しく暮らしていくために、行政の力を借りて、まちの中で活動をしています。地図が完成した後は、まちを訪れた人たちに、地図を手にしていただき、まち歩きをしていただいています。

先日、日本地図学会に「柳原界限がってん地図」を取り上げていただきましたが、その後、朝日新聞にも大きく取り上げていただき、大変嬉しく思っております。



柳原界限がってん地図



まち歩き講座の様子

西新井大師周辺地区まちづくり協議会 街並み景観形成と活性化に 向けての実践活動

西 新井大師周辺地区まちづくり協議会では、景観まちづくりの実践とPR活動として、行燈の制作及び行燈まつりの開催、シャッターアートの実施を行うとともに、事故ゼロ運動、ごみゼロ運動に取り組んできました。また、景観まちづくりの実現化に向け具体的な手法や先進地区の取り組み事例などを視察し学んできました。

第一回夕涼み・行燈まつりでは、5月より製作を進めていた行燈150基を設置。夜間の街並みの景観演出にとどまらず、まちのにぎわいを生み出し、ビューティフル・ウィンドウズ運動の推進にも寄与すること期待しています。

また、先進地区の視察では、香取市佐原地区、市川市中山参道地区をたずね、大変有意義な学びを得ることができました。

これらの活動を踏まえ、足立区を代表する名所として「西新井大師」を中心とするまちの良好な景観の保全や活性化に向けた取り組みを継続して進めていきたいと思います。



第一回夕涼み・行燈まつり



シャッターアート完成

講評



【講評】
吉田 こうじ 運営委員
足立区議会議員

様々なアイデアで まちの課題解決に取り組む

柳 原まちづくり研究会さんの「柳原界隈がつてん地図」、ミウラ折りで、パツと開いて、パツと閉じられるというのは、防災地図などでもありますが、まち中でパツと開いて、いろいろな発見ができる

とてもいい地図だなと思いました。
また、都市農業の部分でいいですよ、昨年、都市農業振興基本法、また都市農業振興基本計画というものができまして、農地は都市のあるべきものであると、国の指針が決まりました。その指針に従い区の方でも、なんとか都市農業、足立区内に農地を確保し、維持するにはどうしたらいいのかを検討しながら、現在さまざまな政策事業をすすめています。

その中で先ほどお話にありました伊興ソーシャルファーム実行委員会さんが行われている取り組みは、協創という考え方の中で、非常に先進的な形であり、私たちとしても非常に参考になります。住宅地である自分たちの地域を農業でつなげていく取り組みは、本当に素晴らしいものだと思います。

まちの課題解決ディスカッション 地域が連携しての まちづくり

加藤 伊興ソーシャルファーム実行委員会さんの報告の中で、地域の学校などと連携したいと伺いましたが、その可能性は、いかがでしょうか。

伊興ソーシャルファーム実行委員会

近所にある幼稚園の園長先生が、団体の理事として、こちらの受け皿が整えれば、利用していただけではないかと思えます。体制が整えば実行したいと思えます。

加藤

柳原まちづくり研究会さんの活動もおもしろく思いました。この地図を活用して、どのような展開をされているのか、もう少し具体的に教えてくださいいただけますか。



柳原まちづくり研究会

この地図を見て、柳原に興味を持った人が、たくさんまちを訪れます。そういう人たちと交流し、自分たちの考えを広め、いろいろな人の力を借りて、まちづくりをしていければと思います。

加藤

訪れる人が増えているというお話ですが、こういう地図を作ることが、地域を見直すきっかけになるということかなと思います。

あだち防災プロジェクト (旧…あなたと私のあだち防災プロジェクト) 災害時に助け合える 地域のつながりを

私

私たちは、足立区内で活動している8団体が、防災というキーワードで集まり、地域交流や乳幼児、高齢者、障がい者支援など、それぞれ強みのある分野を活かし、異世代交流、地域ネットワークづくりを目的にプロジェクトを立ち上げました。区民の方々を対象に、災害時を想定し一人ひとりが助かるためのノウハウを学びます。

活動としては、孤立しないで助け合える地域のつながり、ゆるやかなネットワーク構築を目的に、研修会と体験学習を行いました。

研修会では、栄養士、教員、保育士、福祉施設職員など、災害時要支援者を対象に、学校、施設の防災をテーマに、非常食や防災マニュアルについて学びました。また、乳幼児連れのご家族を主な対象とした防災体験学習や、災害時を想定した防災訓練を競技形式で行う防災運動会を開催しました。全ての研修会、体験学習会において、災害時に二次被害にあわないためのアレルギー対応避難食の試食会を行っています。その成果としては、後に、アレルギー対応避難食を準備された保育園や、自助袋を取り入れた福祉施設があります。



発表者
鈴木 圭子さん (代表)

予定外の活動としては、期間中に、茨城県常総市で河川の氾濫、熊本県益城町で震度7の地震が発生。被災地支援を行っている足立区内NPO法人「地域の芽生え21」からの要請を受けた常総市への支援活動、熊本大地震に重機持参で駆けつけボランティア活動を行った「地域の芽生え21」桑原氏の報告会がありました。活動を通して、災害を乗り越えるために必要なことは、やはり、人の力、地域の力だと強く感じました。



防災運動会 (段ボール居場所づくり)

足立一・二・三丁目地区防災まちづくり連絡会 防災マップ作りから、 安全安心のまちづくりへ

ト

ラストの助成を受けるのは、今回が2回目です。助成対象事業としては、防災たんけん隊の安心安全マップの制作を行いました。

平成27年度は、地区内二つの小学校の統廃合による新たな防災コミュニティの構築や防災意識啓発の企画、かわら版による周辺周知活動を実施しました。そのため地区内の4町会を中心に企画運営会議、および全体連絡会を計8回、マップ作りのワークショップを夏休みにかけて3回開催しました。開催案内は、町会ごとにチラシなどで参加児童を募り、防災マップは、模造紙一枚にまとめた、活動の報告としてパンフレットを地域の皆さんに配布しました。

マップ作りのワークショップの第1回、前半は室内で事前学習として阪神淡路大震災の状況の振り返りと学校体育館の防災備蓄倉庫の見学、後半はまちへ出て、災害に役立ちそうなもの、危ないものや場所を確認し、理解学習を行いました。

第2回は、地域の防災士さんから避難路の考え方について、近隣の津波避難マップを見ながらお話を伺いました。また、レジ袋を利用した包帯作り、棒とTシャツでの担架作り



Tシャツで担架づくり



防災マップ

など、防災サバイバル術を実践学習しました。

第3回は、1回目と別ルートでまちを歩き、危ないもの、役立ちそうなもの、消防設備、公園や防災倉庫などを、マップ上に色違いのシールで示しました。また、地域の公園や防火貯水槽の位置を確認し、防災倉庫の中身を点検しました。

防災マップの制作、防災たんけんマップコンクール応募の過程を通じて、参加児童たちが共同作業を体験し、マップの具体化により地域全体で成果を共有することができました。今後、地域で連携し防災安全まちづくり活動を幅広く試みることに、日ごろからの防災意識の共有を目指します。

防災を身近に。 さらなる発展に期待。



【講評】
浅香 孝子 運営委員
まちづくり推進委員

足 立区では、この秋、防災関連行事が積極的に行われています。今、日本中で災害が起きるかわかりません。これまで、地震に関しては、火山帯など、この辺という憶測がありました。現在は、いつどこで災害が発生するかわからない状況です。

足立区は川に囲まれ、自然が豊かです。自然を考えれば足立区はとてもいい場所ですが、災害は自然からやってきます。忘れた頃ではなくて、次々と忘れたそばからやってくる災害。防災というテーマを持ち、トラストを活用して地域で取り組むことは大変素晴らしいことだと思います。

今回の報告で感動したのは、訓練、実際に体を動かすこととセミナーの両面で活動されていることです。このような備えは大切だと思います。防災に関する行事を運動会形式で競技として行うことは防災を身近にする試みと感じられました。また、被災地への支援を行いながら現場を理解する方法があることを今回の報告で知りました。

防災マップに関して、今回の防災マップのこれまでとの違いは、自分たちの地域のマップを自分たちの手で作ったという事です。これは、大変意味のあることだと思います。

そして、子どもの目から、男性の目から、女性の目からなどあらゆる立場からの視点、この地図の中にはわかりやすく写真入りで掲載されています。また、解説なども詳しく、大変な努力をされたのだなと感動しました。

それでも、どこまで備えてもままならないのが防災。ですから、このような取り組みをこれからも積極的に進めていってほしいと思います。多くの人たちが防災を身近に感じられるよう、活動のさらなる発展を皆さんに期待しています。素晴らしいご報告ありがとうございました。

防災ディスカッション

足立区とも連携し、

地域の防災ネットワーク構築へ

加藤

あだち防災プロジェクトさんの活動報告を聞いて、こういう活動をしていたら、防災力は、高まっていくだろうなと思いました。さらに、地域限定ということではなく、防災をキーワードに8団体が連携して活動されているのです。その場合、具体的にどのように運営されているのでしょうか。例えば、同じテーマで研修会、体験学習などをやる場合は、各地域で開催されたりするのでしょうか。

あだち防災プロジェクト

昨年度は、会場が、エル・ソフィアという足立区梅田地域学習センターでしたので、その近辺の方々とともに、要支援者の方、自分の施設の方々を守らなければならない立場の方たちに来ていただきました。各地域でというよりは、あらゆる地域から来ていただけだと思っています。開催場所は、梅田地域でしたが、花畑、鹿浜など、参加された方は、かなり広範囲から来ていただきました。

加藤

さらにお聞きしますが、要支援者がどういう方なのかということ、これは比較的個人情報で、教えていただけない場合もあると思うのですが、あだち防災プロジェクトさんの活動は、区と連携しなくていけない部分があると思います。足立区との連携に関して、なにかございましたら教えてくださいませんか。



あだち防災プロジェクト

知らされている施設に関しては、郵送などで告知をし、学校関係などは、足立区で届けていただいたりしました。

加藤

足立区の協力も得ながら活動されているということですね。

あだち防災プロジェクト

防災運動会の参加者には、全員にお土産があります。チラシで告知しているのですが、そのお土産は、足立区危機管理課からご提供いただきました。

会場から

防災運動会のところで段ボールで作った椅子のお話がありましたが、足が痛い人やお年寄りの方には、とてもいいなと思いました。あれは、自分の家でも作れますか。

あだち防災プロジェクト

あの椅子は、本当に簡単に作れます。ペットボトルが6本入る段ボール箱の2か所をカッターで切るだけです。後は、折り畳むところに斜線を入れるのですが、斜線を入れたところの幅が狭くなります。本当に簡単に作れますよ。

あだち銭湯文化普及会

銭湯文化を残すための
調査研究から人材育成まで

あ だち銭湯文化普及会は、任意団体「銭湯もりあげたい」と、足立区浴場連合会が連携協力し、足立区にある銭湯文化を残すため昨年4月に発足しました。

銭湯は、まちの社交場、裸の付き合いができるコミュニケーションの場、入浴作法により他者への心配りを実践できる上、心身面でもメリットが多く、日本の建築的魅力も満載の場所です。足立区の銭湯数は、ピーク時の158軒から37軒にまで減少。この銭湯文化を残すため、私たちは、3つの活動の柱を立てました。

1つ目は、足立区の銭湯および、周辺の調査研究活動。2つ目は、普及啓発活動。そして、3つ目は、銭湯事業者、後継者の方を対象に人材育成の勉強会を行う活動です。

まずは、銭湯の実態の整理と推移を把握するために情報収集、銭湯をまわり聞き取り調査を実施しました。これは、現在も進行中です。そして、普及啓発活動として、秋と春の2回、足立銭湯まち歩きツアーを開催。専門家から地域の歴史のお話を聞きながら歩いたり、銭湯のおやしさん、おかみさんと交流したりしました。

次に銭湯事業者対象の人材育成勉強会ですが、今回は、日暮里の齋藤湯さんにご協力いただき、見学および意見交換を行いました。さらに、人材育成コンサルタントをお招きし、接客マナーのセミナーを開催。この取り組みは、東京都浴場組合本部にも取り上げられ、全銭湯に普及させていくという展開に発展しています。



発表者 荒木 久美子さん

活動を一年間行った結果、次の課題が見つかりました。銭湯の文化的価値、まちとの繋がりを再認識し、銭湯事業者の主体性を更にあげるとともによりよいまちにするために銭湯の存在価値をいかにアプロウチしていくか、これらを踏まえすでに2年目がスタートしています。引き続き銭湯調査を行い、ホームページの充実、まち歩きツアーなどを開催していきたいと思えます。



銭湯に関する意識調査



接客マナー向上セミナーの様子

特定非営利活動法人千住文化普及会
自分たちの郷土に、
自信と誇りが持てるように

今 回、私たち千住文化普及会の対象となる事業は、千住浮世絵顕彰碑の製作と普及でございます。ここでいう浮世絵とは、葛飾北斎の作品のことで、富嶽三十六景のうち3枚が足立区の千住地域で描かれたとされています。世界的にも有名な作品が、身近な存在であることを伝え、地域の誇りにしようとして顕彰碑を製作し設置しました。

さて、千住文化普及会のメインミッションは、地域の子どもたちは地域で育てていこうということであり、千住の子どもたちが自分たちの郷土に自信と誇りを持てるようになるの思いがあります。

これまで千住に伝承されている「槍かけの松」の物語、あるいは、「四本煙突（おぼけ煙突）」を題材に絵本を制作。このような歴史的事実が、千住にはたくさんあることを子どもたちに伝えるために活動してきました。

事業の目的は、まち歩きや小学校での出前事業を通じて、ふるさとに自信と誇りを持つコミュニティの形成と地域の活性化です。

今回、「隅田川関屋の里」の顕彰碑を千住仲町公園内に、「武州千住」の顕彰碑を足立区桜木町に、



発表者 樫原 文夫さん

「従千住花街眺望ノ不二」の顕彰碑を千住橋戸町大橋公園に設置しました。まちづくりへの効果としては、地域に暮らす人々に新たな文化意識が生まれ、共有され、連帯感が高まっていくというよう展開を期待しています。

また、富嶽三十六景に関心のある方は世界中にいて、さまざまな国からたくさんの方が訪れます。その方たちが、千住に足を運ぶことによる経済効果も見込んでおります。

今後の展開ですが、小学校への出前授業など、時代を担う子どもたちに、千住というまちの魅力を伝えていかなければならないと考えています。



千住浮世絵顕彰碑

千住組協賛会

開催2000年を記念して

千住酒合戦を再現！

千 住仲組協賛会の今回のあだちまちづくりトラスト助成の対象事業は、千住酒合戦の再現です。千住酒合戦は、文化12年（1815年）

に開催され、昨年がちょうど200年目でした。これを記念としまして、千住の歴史と発展を共有することを目的に千住酒合戦の再現、および講演会やトークショーを開催しました。

昨年9月16日に「千住足立の美術工芸と生活文化」―酒合戦から饅絵まで―をテーマとし、多田文夫先生が講師をつとめ講演会を開催しました。また、10月24日には「江戸文化と酒合戦について」というテーマで、堀口茉純先生の講師によるトークショーを開催。11月22日が、メインイベントの千住酒合戦の再現、合わせて講演会も開催しました。

このような活動を通して、パンフレット、DVD、メイキングDVDなどを制作。これらの成果物につきましては、区内小中学校に配布したり、ボランティア団体に配布したりしました。



千住酒合戦の再現

講評



【講評】
黒川 秀昭 運営委員
足立区まちづくり
推進委員会委員長

後世に残す歴史・文化の掘り起こし

各

団体の皆さま、素晴らしい活動を、ありがとうございました。千住は、その昔、江戸の市民の胃袋を満たしていたぐらいですから、人やものの交流が盛んだったと思

います。ですから、銭湯などがたくさんできるのは、当然のことと思います。人が多く交流が盛んになれば、これはもう飲んで食べて、しまいには死ぬほど飲もうということ、酒合戦が始まったのかもしれない。そして、賑やかな場所となれば、一流の芸術家も、千住を訪れ作品を描いてみよう、そんな気持ちになったのかもしれない。その意味で、ご報告にあった活動のテーマは、千住が呼び寄せたようなテーマだと思います。

そして、これらの活動が素晴らしいのは、私たちが忘れていた、または、気づいていなかった歴史を掘り起こし、後世に残るような形で伝えてくれた点です。まさに、こういう活動こそ、あだちまちづくりトラストの趣旨に沿った立派な事業だと思います。

歴史・文化ディスカッション
文化の普及継承の
ために奮闘

加藤

文化継承のための活動だと思っておりますが、例えば、銭湯がなくなると、地域の交流の場が失われるのではないのでしょうか。

あだち銭湯文化普及会

地域の交流の場という認識は、私たちにもあります。そこが失われないうちにも、今後も頑張つて継承していきたいと思っております。

多くの家に自家風呂がある今、私たちが続けられるのは、それでも利用してくれる方がいるからです。では、なぜ、利用していただけるのか。健康増進という面が大きいと思っております。大きな風呂に入ると疲れがとれ、ぐっすり眠れる、そうおっしゃるお客さまがいます。背中が曲がったお客さま

ですが、風呂を出る時には、しゃんと出て行く。これぞ銭湯文化維持の意義であり、皆さまに対するご恩返しだと思っております。

加藤

観光客やお子さん、お孫さんの利用についてはいかがでしょうか。

あだち銭湯文化普及会

観光客については誘致という事で様々なイベントを行っています。また、親子、お孫さんという対象を大事にしたいと思、親子の絆、お孫さんとの触れ合いイベントを開催しています。すべて銭湯文化普及維持のために行っています。



みんなで考え、活動する、 協創のまちづくり



【全体講評】
大熊 喜昌 運営委員長
まちづくりカウンセラー

素

晴らしい報告をどうもありがとうございます。例年より内容がよくわかるようになりましてので、会場の皆さまにも楽しんでいただけたと思います。

各団体の報告を聞いて、例えば、北千住にもいろいろな活動をされている方がいて、とにかく活動する方がたくさん出てくると、まちが豊かになるので非常にいいことだと思います。

柳原まちづくり研究会さんのマップは、それぞれの活動を皆さんで認識することに本当に役立つものだと思います。

西新井大師周辺地区まちづくり協議会さんは、行燈まつりなど特定のイベントだけでなく、他にもさまざまな活動をされていて、それらを継続し発展させていくことで、まちが良くなっていくのかなと思います。

あだち防災プロジェクトさんの活動では、今までと違う点に非常に感銘を受けました。私も20年以上足立区の防災訓練に参加していますが、通常の防災訓練は、複数町会が主催であったり、消防団を中心に運営されています。しかし、こちらの活動は、これまでと違い地元の方や生活センターに集まった団体が運営して

いるわけで、考えてみると参加団体が自主的に行っているため、参加している人も積極的です。

協創のまちづくりをテーマとするなら、トップダウンではなく、さまざまな団体や人が、いろいろな働きかけをし、たくさんのグループがそれぞれ独自に活動しながらも、その地域の共通のベースに沿うようなかたちでまちづくりをしていくというのが、私の考えている理想的なまちづくりです。

これまでは、誰かが音頭を取り、コーディネートし、活動を調整していくことが必要だと思っていましたが、今は、それがあまり現実的ではない気がしていて、皆さまのご報告を聞いて改めてそう感じました。

では、この場合、どのようなやり方があるのでしょうか。私が思うのは、今までにない方式を考え出さなければならぬということだと思います。これに関しては、スタッフが考える、専門家が考える、という話ではなく活動を続けながら、みんなで考えていくことになりま

協創の概念に寄り添う 活動を今後も

皆

さま、お疲れさまでした。簡単ではありますが、私から感想を述べさせていただきます。

空き家の利活用、千住いえまちプロジェクトさんは、建物のことだけでなく、外に出て活動の輪を広げながら多くの団体との連携を図られています。千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会さんも、「たこテラス」を拠点としながら、やはり、他団体とつながりを持ち広く活動されています。現在、区でも空き家調査をしています。区が連携できるものは連携し、さらに活動の輪を広げていっていただければありがたいと思います。

まちの課題解決、伊興ソーシヤルフーム実行委員会さんから、農業という切り口でお話がありました。単に農業というだけでなく地域の歴史を大切にし、人のつながりまでも考えていただいた点は、非常に参考になりました。

柳原まちづくり研究会のマップ作りでは、まちを歩き、その変化を観察し地域活動につなげたりと、自分たちのまちを知るといふ原点がここにあると感じました。

あだち防災プロジェクトさんの防災運動会を代表とする活動は、非常に有意義であり、このような活動を

区も参考にし地域の方との連携を図っていければと思います。

歴史・文化、あだち銭湯文化普及会さんの活動については、銭湯がコミュニティの場であるなど、その存在価値をPRしながら、今後も活動を続けていっていただきたいと思っています。

最後になりますが、千住文化普及会さんの葛飾北斎浮世絵顕彰碑製作に関して、江戸の風景を、まさにその設置場所から描いたことがわかるのは、非常に価値があることだと感じました。

全体を通して、よい昔の文化、産業ですとか、ハード面の文化を残すことと人的支援をつなげていくことが、今回の皆さまの共通のテーマだったのでないでしょうか。当初、基本構想のなかで協創という概念がありました。そこにつながっていく重要な報告だったと思います。

今後、あだちまちづくりトラストは、若い人たちにも利用していただけるよう、そして、トラストの輪が広がっていくようにと改正を予定しています。これからは、主体的な活動、区との連携のなかで、トラストを活用していただければ非常にありがたいと思います。



【全体講評】
工藤 信 運営委員
足立区都市建設部長

閉会挨拶

皆

さん、本当に長い時間お付き合いいただきまして、ありがとうございます。

成果報告をされる7団体の皆様方には、7分間という時間は短すぎたのではないのでしょうか。もつと話したいこと、自慢話、苦労話などがあつたのではないかと、そんな風にはありますが、すべての団体に報告していただくということで、このような形となり、時間内に終わることができました。

各団体に参加されているそれぞれの方々は、本来、各自の経済活動を行っている中で、足立区のまちづく



【閉会挨拶】
小川 清美 信託管理人
税理士

りのために、ご報告にあつたような活動をされているということ、本当に感謝しているところでございます。このことが、地域の私たちの絆や連携を培う土台となるのではないかと思っています。

本日は、限られた時間のなかで、この報告会を開催できましたことに感謝申し上げます。また今後の各団体のご隆盛、会場にお集りの皆様方のご健勝を祈念申し上げます。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



成果報告会参加者を対象にアンケートを行いました。

対象：成果報告会参加の20～70代以上の男女44名

01 あだちまちづくりトラストについて

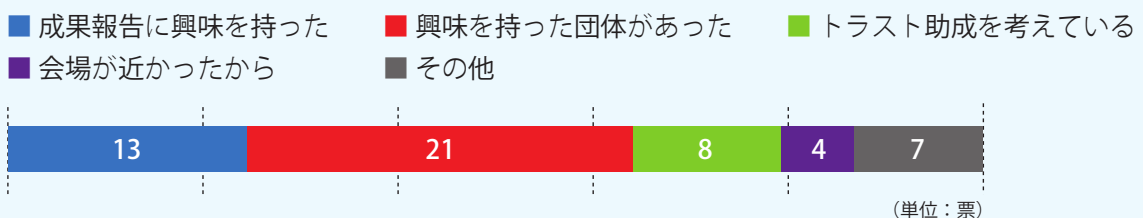
- 自分の住む街の中で必要だと思う活動をするのだから費用も自分たちで準備したいと思いますが、トラスト助成を頂くことで街の中で大きな輪を広げることができました。言葉のとおり「あだちまちづくり」の活動にできたと思います。ありがとうございました。
- 志を持ったメンバーが集まり、まちづくりトラスト助成を受けたおかげでメンバーのアイディアに火が付きました。心の中で考えている人は沢山いれど、きっかけがなかった足立愛にあふれる人が多いことに気づき驚いています。もっとメンバーを集め、足立区を盛り上げたいと考えます。
- このようなトラスト事業は他区ではあまり見られないので、ぜひ続けていって頂きたいです。
- 足立区としてもトラスト助成活動として、とてもいい事をやっていることが改めて理解できた。
- 公的主導ではなく、地域に暮らす市民が想うまちづくりを主体的に活動運営し、継続できるように助成していただきたいと思う。
- 空き家の利用という点では、いろいろモデルが有りますが、持ち主がいない空き家の問題の解決の事例の紹介があれば問題解決の一助になると思いました。今回は、そのような根本的な課題解決の事例がなく残念に思いました。
- 学生との連携を更に強めること。
- トラスト制度のPRが不足？。町会の掲示板に貼るなど町会にトラスト制度をPRしてほしい。
- もう少し簡易な申請ができれば。
- もっとPR，壁をもっと低くし申請しやすくしてほしい。
- トラストの使い方、参加の仕方を分かりやすく教えて欲しいです。話にも出ましたが、各商店街などが街おこしとして参加できる枠組みをつくってほしい。
- まちづくりトラストに多種多様な団体が応募できるようになるので楽しみです。
- 継続する企画でパワーが出てくるものがあるので今回の変更はありがたい。



02 活動成果報告会について

- 大変良かった、報告会は大事である。
- 助成金を使っでの活動なので、この様な形での報告の場があるのはとても良いと思う。
- 自分たちの団体の報告作りも勉強になりました。目的と活動と効果を考え見直す機会でした。また他の団体の発表を伺い協力&コラボしていきたいと思いました。
- 各活動とも内容が良く練られていて、自活動にとっても刺激になりました。
- 助成を受けた団体自身が報告することをした方が良い（数団体は資料報告として事務局が行った）。
- 今日の発表会はテーマ別に分かれていてたいへん解りやすく楽しかった。時間も短く感じられ充実していた。
- 活動の具体例など参考になりました。
- 案内状を戴き初めて出席しました。まちづくりのために熱心に取り組んでいる方が 多くいらっしゃるんだと驚き感心致しました。
- 報告会で使ったパワポや説明内容を動画で紹介できたらよいと思いました。
- 増え続ける空き家に関心を持ってもらい、区民のひとりひとりが空き家になる前に活動してもらうにはどうしたら良いのかということのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- 具体的な活動の成果にとっても感動しました。防災運動会などは、フォーマット（形式）を標準化して、時間や競技のルールなど幼稚園・小学校・中学校へ普及できないか？
- 各地域各分野で思いを持った活動が聞ける貴重な場です。周りからどう思っていたかを知る機会をとしてありがたい場だと思っています。

(1) 今回の成果報告会に来るきっかけは、何でしたか？（○複数回答可）



(2) 今後トラスト助成を受けてみたい、助成申請を予定している。



(3) (2)で「予定あり」もしくは「検討中」と答えた方にトラストの制度改革についてうかがいます 今回のトラストの制度改革について、興味を持った項目は何でしたか？（複数回答可）



自主的なまちづくり活動を応援しています。

平成 28 年度助成活動団体

NO	団体の名称	事業内容
1	200事務局	千住内で活動する団体の人的交流をはかり活動のつながりを育て、組織間連携の実践を中心とした記録集を作製し千住の文化に根ざした可能性を共有・発信する。
2	西新井大師周辺地区まちづくり協議会	街並みガイドライン案を踏まえた地区全体の景観ルールの検討・PR等の方策（規制誘導、助成事業）の導入検討を通じて、景観まちづくりの実現化を目指す。
3	高野町会	胡録神社と車道間に自主管理歩道を整備
4	梅田BW会	公園内に花いっぱい運動を確立して地域の活性化とコミュニティ形成に寄与することを目的とした活動を行う。
5	佐野町会・自治会連絡協議会	葛西用水桜通りにのぼり旗、銀河の塔に懸垂幕を設置し、住民の鉄道整備促進への機運を高める。
6	竹の塚中学校活用推進委員会	東武スカイツリーラインに面した学校西側校舎窓にカットニングシートによる施工を行い、立地条件を有効活用した足立区のまちづくりをPRする。
7	千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会	空き家を活用したイベント等を行うことにより、地域の人々の交流の場、年齢や性別を問わずに文化的な経験、機会を持てる場を提供する活動を継続する。
8	あだち銭湯文化普及会	足立区内に現存する銭湯の調査・研究および情報発信の活動を通して、地域活性化とコミュニティ形成や地域のまちづくりに寄与する。
9	足立区多機能サービス連絡会	要介護高齢者が歩いて暮らせるまちであるかを評価し、また、要介護高齢者を対象とした運動リハビリ前後の身体能力測定や認知機能の調査を行う。
10	あだち防災プロジェクト (旧:あなたと私のあだち防災プロジェクト)	防災学習・体験型防災運動会を企画し、防災をより身近で必要なものと感じてもらい、日々の暮らしの中で無理なく出来ることを積み重ねていけるようにする。
11	セブンスターマンション西綾瀬管理組合	セブンスターマンション西綾瀬前の自主管理歩道車止めの補修工事。

「あだちまちづくりトラスト」 助成申請から助成金交付まで

自分たちのまちを、安心・安全・快適なまち、魅力的なまちに変えていく、自主的なまちづくり活動を応援します。

申請募集は、5月・12月の年2回行っています。

アイデアあふれる活動の申請をお待ちしています！

平成29年度第1回まちづくり トラスト募集から新制度と なりました。

詳しくはHPよりご確認ください。

<http://adachi-trust.jp/>

